

平成 24 年度文学研究科共同研究 研究成果報告書

申請者氏名	内田次信
-------	------

研究課題名	ギリシア・ローマ神話のアレゴリー—その表現・解釈・理論に関する研究—
-------	------------------------------------

研究組織

氏名	所属機関・部局・職名	専門分野
内田次信	文学研究科・教授	西洋古典文学
西村賀子	和歌山県立医科大学・教授	西洋古典文学
加藤 浩	文学研究科・准教授	文芸学
五之治昌比呂	日本語日本文化教育センター・准教授	西洋古典文学
平山晃司	言語文化研究科・講師	西洋古典文学
渡辺浩司	文学研究科・助教	レトリック論
戸高和弘	文学研究科・非常勤講師	レトリック論
西井 奨	文学研究科・非常勤講師	西洋古典文学
里中俊介	文学研究科・博士後期課程	文芸学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究の目的・計画

神話は往々にして、アレゴリーとして表現されるとともに、アレゴリーとして解釈されることを求める。本研究は、ギリシア・ローマ神話をアレゴリー表現とアレゴリー解釈という相互補完的視座から再記述することを通じて、神話に随伴するアレゴリー性の言語的規制力を分野横断的に照射し、そこから、神話のアレゴリー理論、ひいては文学一般のアレゴリー理論を導出することを目的とする。

本研究は、上記目的を達成するために、数次にわたる研究会を開催するとともに、ギリシア・ローマ神話学研究会及び文芸学研究会とも連携し、合同の研究会を開催する。また、本研究の趣旨に賛同した小堀馨子（成城大学・ローマ宗教史）、西塔由貴子（京都精華大学・西洋古典文学）、勝又泰洋（京都大学・西洋古典文学）を研究協力者として迎え、研究体制を実効性あるものにする。さらに、本研究の総括として、研究成果報告書を刊行する。

## 研究成果

研究目的を実現するために、3回の研究発表会と1回の講演会を開催した。

第1回研究発表会 2012年10月10日

里中俊介 「プラトン『国家』におけるムーシケー論」

第2回研究発表会（第7回ギリシア・ローマ神話学研究会および第50回文芸学研究会と共催）

2012年12月22日

平山晃司 「跛行の象徴性について」

第3回研究発表会（第8回ギリシア・ローマ神話学研究会と共催）

2013年2月16日

勝又泰洋 「ディオーン・クリューソストモスと3人の放浪者」

小堀馨子 「オウィディウス『祭暦』におけるパリリア祭の記述とロムルス建国神話」

西塔由貴子 「『イリアス』に見られる色彩表現の一考察; φοῖνιξ が象徴するもの」

西井 奨 「オウィディウスのデーイアネイラ——『名高き女たちの手紙』第9歌における fama と factum——」

2013年3月29日にブラウン大学のD. Boedeker教授を招き講演会（第9回ギリシア・ローマ神話学研究会と共催）を開催した。講演題目は、Early Greek Poets as/and Historiansである。

基本、文献研究である本研究においては、ギリシア・ローマ神話の具体的表象と理論とを往還することを通じて、個別的な文学表現を、その都度刷新される理論的手続きによって記述することを試み、古代における文学の表現と解釈の内に、部分的であるにせよ、字義性からの偏差としてのアレゴリー的な意味付与作用の意義を確認し、さらにまた、偏差としてのアレゴリーの意味の相関者である字義的意味を再発見することにもある程度まで成功した。このことは、特に、平山晃司、勝又泰洋、小堀馨子、西塔由貴子、西井奨の研究発表において顕著に認められる。また、里中俊介の研究発表は、プラトン『国家』におけるムーシケーの意義を問い、ムーシケー論に包蔵されている神観とギリシア神話の関係性について、示唆的な指摘を行った。さらに、Boedeker教授は、初期ギリシアにおけるヒストリアー（歴史記述）とポイエーシス（詩作）の近接性を説得的に講述し、神話を対象とする本研究の方向性にも一定の指針を与えた。内田次信、戸高和弘、渡辺浩司は、ルキアノス『偽預言者アレクサンドロス』（京都大学学術出版会）の翻訳書を刊行し、諷刺文学におけるアレゴリー性的一端を紹介した。また、戸高和弘は、クインティリアヌス『弁論家の教育 3』（共訳 京都大学学術出版会）の翻訳書を刊行し、レトリックの視点からアレゴリーの意味を解明した。西村賀子は、『『オデュッセイア』<戦争>を後にした英雄の歌』（岩波書店）を刊行し、多層的意味構造を成すこの叙事詩を現代的視点から解読するための展望を開いた。加藤浩は、ポイエーシス理論史に立脚し、神話とポイエーシスの関係性を問い、プラトンの錯綜とした詩人観の解釈のための視座を提示して、その成果を本研究の成果報告書に論文として掲載した。

なお、諸般の事情により、本研究に基づく科学研究費補助金への応募は見合わせた。

**研究発表** [①論文・書籍、②口頭発表、③研究会開催、④その他に分けて記入してください。]

① 論文・書籍

内田次信 「ルキアノス第 5 篇」 『2012 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書』

西村賀子、他一名 「Les aventures de Télémaque の本邦初訳をめぐる書誌学的研究」『和歌山県立医科大学保健看護学部紀要』第 9 巻

西村賀子 「三つの関係軸が絡み合うところ—『オデュッセイア』第 22 歌 465-477 行—」 『西洋古典学研究』第 61 号

加藤 浩 「プラトンのポイエーシス理論の一局面」『2012 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書』

西井 奨 「オウィディウス『名高き女たちの手紙』第 9 歌におけるデーイアネイラ」『2012 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書』

里中俊介 「プラトン『国家』におけるムーシケーの位置付け」『2012 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書』

内田次信、戸高和弘、渡辺浩司（訳） ルキアノス『偽預言者アレクサンドロス』 京都大学学術出版会

西村賀子 『『オデュッセイア』<戦争>を後にした英雄の歌』 岩波書店

戸高和弘、他二名（訳） クインティリアヌス『弁論家の教育 3』 京都大学学術出版会

② 口頭発表

西村賀子 「三つの関係軸の交差点：『オデュッセイア』第 22 歌 465-477 行」、日本西洋古典学会第 63 回大会

平山晃司 「跛行の象徴性について」、第 7 回ギリシア・ローマ神話学研究会

西井 奨 「オウィディウスのメルクリウス—『変身物語』第 2 巻 676-832」、地中海学会 第 36 回大会

西井 奨 「オウィディウスのデーイアネイラ —『名高き女たちの手紙』第 9 歌における fama と factum」第 8 回ギリシア・ローマ神話学研究会

③ 研究会開催

第 1 回研究発表会 2012 年 10 月 10 日

第 2 回研究発表会（第 7 回ギリシア・ローマ神話学研究会および第 50 回文芸学研究会と共催）

第 3 回研究発表会（第 8 回ギリシア・ローマ神話学研究会と共催）2013 年 2 月 16 日

講演会 2013 年 3 月 29 日

④ その他

講演

加藤 浩 「悲劇の王妃『メデイア』を読む/観る」、21 世紀懐徳堂 i-spot 講座

辞典項目執筆

西井 奨

松村一男・平藤喜久子・山田仁史（編）『神の文化史事典』白水社（西井奨はギリシア・ローマ神話のうち 29 項目を執筆）

**研究経費支出明細** (単位：千円)

費目	内容	小計
設備備品費	基礎文献購入費	160
消耗品費	USB フラッシュメモリー	6
旅費	東京一大阪往復	70
謝金	Boedeker 教授講演謝金	24
その他	研究会・講演会開催費	40
	成果報告書印刷製本費	250
計		550

## 記入上の注意

- ・ 全般

3～4頁については記入欄の数・幅が不足する場合は適宜追加・拡大してください。  
ただし、ページをまたぐ変更が起きないようにしてください。

- ・ 研究組織

記入欄が足りない場合は追加してください。

- ・ 研究経費の内訳

記入欄に収まる範囲でできるだけ詳しく記入してください。

例：東京出張（1泊2日〇円×3回）

〇〇作業アルバイト謝金（〇円／時×〇時間）

- ・ 外部資金応募・獲得状況

研究代表者またはその他のメンバーが研究代表者として応募した（または応募予定の）ものうち、本研究計画に関係するものを記入してください。研究分担者として応募した（または応募予定の）ものは、特に本研究計画と密接な関連がある場合に限り記入してください。